

月二回  
15, 30日発行  
A・P社参加団体  
協同編集

# ネオリブ

発行：A・P社（アマゾン&ピラニア社）  
発行所：東京都杉並区上荻  
2-19-15(403)  
TEL：398-8876  
定価：一部50円

## 女の視点から闘い抜け！

### 優生保護法（＝中禁法）改悪を許すな！

今回の優生保護法改悪の目的は明らかに女に対して中絶の締めつけを行うことが重大な課題であり、目的であることは前号で述べた修正案の方向を見てもはっきりしていることである。この政府の攻撃に対し、今、緊急に女の立場からの反撃がなされなければならないにもかかわらず、「生む生まないは女が決める」ということは実際には障害者差別につながり「中絶は女の権利」とは言えない、という誤った論理でもって我々の女の視点に立った正当な改悪反対運動に対し足を引っ張ってきた姉妹達に対し、強い批判をすると共に、我々の改悪反対運動の正当性をさらに確認していきたい。

## 「中絶は女の権利」は 障害者差別ではない！

我々はこれまで一貫して現行優生保護法を墮胎罪と共に中絶禁止法ととらえ、今回の改悪はその中絶禁止をより強化せんとするものであることを主張し、この政府の攻撃に對し「中絶は女の権利」であることを強く主張してきたのである。ところが我々の主張に對し、

「『生む生まないは女が決める』となると、実際には胎児が障害者だとわかった場合おそらく誰も生まないだろう。つまりそれは政府の肩かわりで過ぎず、それは障害者差別である。」という論理でもって反対し我々の運動の足を引っ張ってきた部分はかなりいる。

おそらく障害者にとっては、「障害者だから中絶する」ということは自分達が抹殺されるような気がしたに違いない。しかし、今の社会で、女に對し「障害者でも生め」ということはいったいどの様な事態を意味するのか、それはまさに生んだ女に對する死の宣告であろう。（障害児を生ん

だ場合に限らないが）ほとんどの生んだ女にとって育児が強制されることは明白なことであり、そのことによって女は殺されてゆくのである。障害者を生むか生まないかは、女にとっては自分が生きるか死ぬかのぎりぎりの選択であり、それは女自身にしか選択できない問題である。このことは胎児が健丈者の場合であっても、多くの女にとっては同じである。育児を強制された女がどれだけ死んでいるかは商業新聞の心中、自殺の欄を見ただけでも少しはわかるであろう。

現社会において、女に對し「障害者でも生め」というのは、障害者が生きようとするエゴであり、女が「障害者だから生まない」というのは自分が生きるためのギリギリの譲れないエゴであり、これは生きようとする者のギリギリのエゴとエゴのぶつかり合いにはかならない。そのことを

「差別」と称し、だから「中絶は女の権利」といえないというのは、我々の運動の足を引っ張る以外の何ものでもない。我々は胎児が障害者だろうと健丈者だろうと生む生まないは女が決めることであり、「中絶は女の権利」であることをこれからもはっきりと主張していく。障害者の問題、子供を育てられない状況を変える問題は社会福祉・社会変革の問題であり、それぞれの立場からの闘いが必要なのであって女が中絶の権利を要求する運動は、障害者の運動に何ら敵対するものではない。ところで「中絶は女の権利」とは今は言えない」と言っている姉妹達がいる。しかしこれは、はなはだ誤った現状分析である。今こそ「中絶は女の権利」と声を大にして叫ぶ時である。なぜなら今政府は生める状況はいっさいつくりずして、女に子供を生ませようと着々とみるみるを進めているではないか。（しかも資本にとって有効に役立つ健丈者を生ませようとしているのである。）それはピルの販売制限、0歳児保育所の閉鎖の方向、今回の中絶の締めつけなど具体的な形ですでに行なわれているのである。このような情況の中で「中絶は女の権利」と主張することが、まさに今政府に對する反撃となるのである。

（次ページへ続く）

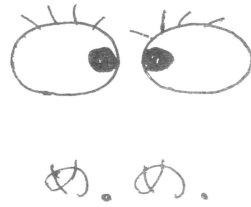
# スチュアードスの権利

＊アメリカ

アメリカの某大航空会社のスチュアードスが我々を訪れた。中び連のポスターを街でみつけ、やっと日本のリブの女達と会えると喜んでやってきた。彼女との話から、スチュアードスのリブの動きをお知らせしたい。

ケイティはスチュアードスになってから10年になる。これからも続けていく気だという。半年前に「スチュアードスの権利」という名前のリブグループを初めて作り、現在は会社とかお客が持つスチュアードスのイメージを変えること、ベイスアップ、退職金の要求等の問題にとり組んでいる。

手ががし、結婚するまでの腰かけにさせようと男達はたくさんでいる。しかし最近では2、3年でやめていく人は少なく、5年、10年とスチュアードスをしていく女性はめずらしく



DISCOVER.

「JAPAN」を叫ぶことしきり鉄道交済会を名を「KIOSK (キオスク)と読む。小さな便利な店という意味だそうだが」と愛え、なにかしら人々の心

んだといえるでしょう。内容はピルの原理、飲み方、副作用等について、ピルについては何も知らない方、これから飲んでみたいけれど不安がある方、どんな方にも役に立つと思います。

王権は「井戸端会議」という国立の女性グループでいわゆる主婦の方を中心に活動を行なっています。

このような地域的な講演会も希望があれば、中び連では積極的に協力していきたい

ない。アメリカでは彼女達はおツムが弱いことになっていくらしいが現実は大抵の航空会社ではほとんどが大学卒である。日本のスチュアードスが着物を着せられることに象徴されるように、彼女達は人形のごとく、誰にも好感をもたれるよう微笑み、怒ることも感情をあらわにすることも

も旅づいた8月であった。かくいう私も友人の帰省に便乗して福島へと旅立ったのである。列車出発10分前にすべりこみセーフし、車中に帽子を置き忘れ、先を思いやられ旅の始まりであった。さて福島は温泉で有名である。胃弱である私は、さっそく胃腸の名湯である「盛岡熱海の温泉へ足を運んだ。「盛岡グランドホテル」という超デラックス(?)のホテルを横目に「こがね湯」という見ると聞くとは大違いの宿に入った。そこ

と書いています。どうぞ御連極下さい。

講師 薬事評論家復美沙子  
主催 国立井戸端会議  
協力 中び連

時 九月六日 AM 10:00  
所 国立公民館 12:00



なく、時には色気を出し、んな要求にもやさしく応じるというようなイメージを強制させられる。これに挑戦し、これを変えようという彼女達の闘いに声援を送りたい。

は昔の本質宿といった風の今にもかたむぎそうなひなびた温泉宿であった。

ぬるさにかっかりしながらもけっこう私と友人(女)は楽しんでいった。するとガラッと首かし(この場合、戸のたてつけが悪いので音もなくとはいかない)なんとハゲあがった中年男が入ってきたではないか。男は少しも驚いたふうはなくむしろうれしそうに顔をさえみせて、私達二人の方へ向かってくる。二人はあわてとびだした。彼で宿のおかみに聞くと、そこは混浴だそうなの、初めからいってこれはいかに。

だいたいキレイな男性が入ってくるならまだしも、中年男なんて、あーあ、ついてない。でも氷水50円はうれしかったな。ヤッパリ。

## 女の視点に立った

### 強固な改悪反対運動を!

現在の資本主義社会においてはあらゆる人間関係にある区別がすべて差別はなりうる。意識するしないにかかわらずこの体制内に生きていくこと事体が差別をささえているのである。

たとえば、女に対する男。障害者に即する、健丈者。在日朝鮮人に対する日本人等々。このような差別の重層構造を根底とした社会に存在している限り、いくら「私は：を差別していない」と言おうが言うまいが、差別の関係から抜け出すことは決してできない。

それゆえ、それぞれが、それぞれのおかれた状況から差かど闘っていくことこそが、一番強固な運動となり得るであらう。

だからこそ我々は女の立場から女の解放を目ざして闘おうとしているのである。そして今我々は女の基本的権利である「中絶」の自由化を全面的に勝ちとるべく運動を進めているのである。この我々の正当な運動に対し、女としての視点を捨て、我々の運動の足を引っ張りつけてきた姉妹達の、女を裏切っ

た責任は大きい。障害者の人達が今度の改悪を、障害者に対する差別を一層強化しようとするものでありととらえ、その視点に立つて改悪反対を主張するのは当然のことであらう。

それぞれの立場で改悪反対運動を進めることが一番大きな力になり得るのである。姉妹達よ、今こそ女の視点に立った中絶法反対の運動を押し進めていこうではないか。あらゆる女の運動に対する非難、中傷、妨害をはねのけ、女性解放に向けて一歩一歩強固な闘いを組んでいこう!

#### 「ネオリブ」定期購読のお知らせ

購読料 6ヶ月 500円(送料込み)  
振替口座 東京177972 中び連  
宛先 東京都杉並区上荻2-19-15  
マンション荻窪403  
A・P社

読者寄稿又その①

ボケーとしてい  
るイギリス人?

イギリスはロンドン。あちこちに広々とした公園がある。公園には年配の人達と子供がボケーツとして居る。(あまりにもせわしい日本人にはそのような表現しかできない。)何もしないで何時間も無表情にすわっているのが何とも不思議でならない。私が不思議そうな顔をしてあたりを見まわしていると、ひとりの男が声をかけてきた。ざんざんブスでもないのに、しばらく時間つぶしにおしゃべりをするに話したが、なにせこちらがかた言の英語しか話せず、相手の言っていることがちんぷんかんぷん。それでもわかっているような顔をしてしばらくおしゃべりを続けた。彼はアメリカから来たヒッピーとのこと。そして私に「ジャルバック?」と聞いた時はあぜんとしてしまった。お昼に二年前からこのロンドンに住んでいる友達と会った。そして土産を買おうとあたりを見ましたが、何と店は皆締まっているではないか、友達の話によると、三時まで皆シャッターを閉めて絶対

にあげないとのこと。私はロンドンの地で「日本人は全くよく働かされている」ということをつくづく感ぜずにはいられなかった。友人に、六時頃にはまた店が締まってしまおうから早く土産を買ってしまおうよと言われ、アクセサリーとか焼物を置いている店に急いで入り、結局小さな花びんを買ったのだが、あわてておつりを忘れてしまった。「サンキュー」と言っ

て出てきたのだが、後からその店の人が追っかけてくるのでびくりにしてふり返ると「チョットオツリ、オツリ」と叫んでいる。おまけに最後の言葉は「ドウモアリガトウゴザイマシタ」

世界中禁法反対運動資料集(3)

「同性愛の選択」

インタビュー

「我々の多くは同性に對しお互いに強い感情を抱く。我々が知っている一人の女性は最近友達と恋に落ち入り、次のように言っていた。自分が折れている。あるいはあきらめておこなった。感じていないのに感じていふりをする必要もなかった。お互いにただ二人が女性であるが故に相手が欲していることを感ずることができ、セックスは非常にいいものであった。」

「担うべきどんな既成の役割もないのだ。何事かあると、それは情欲から生ずるのであり、いかかわしい期待からではない。我々の人生には女性の方がより性的一致を感じる時があったり、女性と一緒に働く時、生活する時、愛する時などがあったりするだろう。そのような選択は時々男性恐怖心からおこっている。強姦、無力感、屈辱の恐怖、これらは一般的にあることで、現在の文化の中にある現実はそれを予想することは現実的である。保護が行き届いていない中産階級も含めて、信じられない程の数々の女性達が性を虐待された経験をもっている。最近のことについて話した15人の女性のうち、4人は強姦された経験をもっていた。見知らぬ男による暴力的な攻撃は我々すべてが感じてきた集団的屈辱のほんの一部にすぎない。」

「男性との『不感症』あるいは女性の恋人の方に向うということは、社会に受入れられる異性愛的出会いが非常に破壊的傾向にある時には驚くにあたらない。心理学者はこれをアブノーマルと呼んでいる。男性恐怖症はアブノーマルだと彼らはいっているのである。我々は次のようにいう。一人一人が自分自身の結論を引き出し、また自分自身の恐怖を扱わなければならないだろうと。」

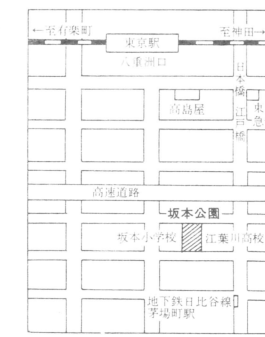
「我々のうちの幾人かはお互いに愛と性を表現することに決めるかもしれない。人間のあるまじい姿を維持する為には我々がすべきことは、これらの、あるいは他の選択を  
訂正のお知らせ  
27号の訂正  
◎1ページ 目次  
◎2ページ 誤中絶は女の権利と障害者差別  
← 新たな段階を迎えた  
ピル解禁運動  
◎7ページ  
世界中禁法反対運動資料集  
Our Bodies Our Selves  
Our Bodies Our Selves  
Our Selves

9・22

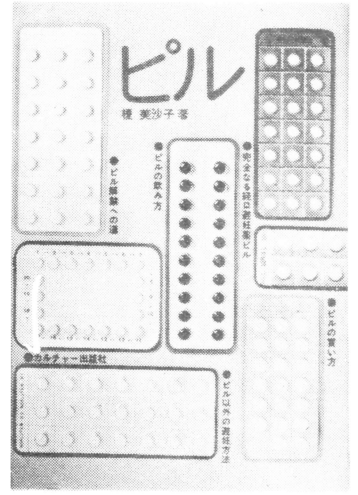
優生保護法改悪(中禁法)  
反対集会に結集せよ!

優生保護法改悪案は廃案の見込みでしたが、国会会期延長により一部修正されて、他の重要法案と共に強行採決が濃厚となりました。修正案では改悪案のうち、「胎児チェック」の条項は削除されていますが、他の二点「経済的理由」の削除、及び「適正分娩年令の指導」の付加はそのまま残されており、依然として中絶を感ずるといふ法案に変わりありません。この優生保護法改悪案に断固反対し抗議行動をおこそう

ではありませんか!  
スローガン  
○十 優生保護法改悪反対!  
○十 優生保護法、墮胎罪解体  
○十 ビル解禁



Your Bodies Our Selves  
より抜すい。  
「我々の生活環境を、どんな時にも自由に動くことではないだろうか。どんなしゅん間にも我々にとって正しいことをするのを妨げる神話やタブーにさらされることはない。」



ピルの百科辞典  
\*「ピル」 優美沙子著カルチャ  
一出版最寄りの書店で御求め下さい。

# 服装の歴史 日本編 III

## キモノと女らしさ

前号では現在においてキモノの存在理由がないという事を明らかにしてきたわけだが、そのキモノという言葉に象徴されると思われる「女らしさ」について触れてみたいと思う。

果して「女らしさ」は必要かくべからざるものとしてあるのだろうか。どの時代にもそれぞれの道徳があり、人々はそれを絶対と信じていた。それは個人の理解力をこえた制度に根ざしているから怪しまないので、智慧や能力だけでは片づかない。平安時代に夫を失った女が幾度男と結婚しても平気なのに、江戸時代には「貞女は二夫にまみえず」といって再婚が批判されたのも、時代が違えば道徳が違ったからで、決して平安時代の男たちが進歩的だったわけではない。ただ我々は現在に立って、女らしさは旧新にとらわれるのではなく女らしさとは何かを考える必要があり、それが女である限り生れつき持っているものをさすのか、ある時代にある理由で生まれたものなのかを確かめ、それによって「現代の女らしさ」が正しいのか、それとも女らしさそのものが亡

び去るべきものかどうかを知らねばならぬ。

女らしさとは決して歴史的に一定していたものではなく、同じ態度や行いが時代によってある時は女らしくないときめつけられ、ある時は見逃されていく。従って性器の相違や、出産のような決定的なものではないということは明白である。つまりそれは、人間の特徵ではなくて社会生活の特徴なのだ。

歴史を調べると古代において女男の生活が平等な時には性の違いは生理的相違にとどまり、何ら優劣の概念がない。たとえば女が男と肩を並べて軍事活動や社会活動をしている場合には何ら不思議がられず、女が軍事行動や政治活動からしめだされるようになる。それは女らしくないと信じこまされる。これは、女らしさというものは現在ではなくて評価だということである。さらに女男の生活のバランスが崩れた時に生まれたものでその食いちがいを合法化するための評価である。男にとつてそれが差別の口実となり、女にとつて運命という形をとるのだ。女だけのためにつくられた「女らしさ」の美德も

個人が考えだしたものでなく社会の現実が生み出したものであり、支配者と被支配者という社会関係の反映なのだ。だがそれがハッキリと眼につくようになったのはキモノ時代からである。

女らしさの中で、最も一般的なものだけに自然だと思われるのは女男の言葉の違いだろう。しかし根本的に違ふと思われしてきた言葉も平安時代頃は女コトバと男コトバの区別が意外なほど眼につかなくなる。しかしこの言葉の区別がハッキリ出てきたのは室町時代、つまりキモノ時代からだった。それも地方の働く女ではなく宮廷の女官から始まり、これが今日伝えられている女房言葉であって、名前の上に「お」をつけた下「もじ」をつけたたりする。重要なのはこの女房言葉の四分の三が食料品で残りのほとんどが家具調度の呼び名になっている事だ。さらに江戸時代に入り庶民の間に使われるようになる。服装の言葉が入ってくる。そのわけは性によって区別された社会生活(ヨメ入り婚や父家長権発生にみられる女の地位の低下である)がバックになっている。つまり家庭の中の雑務や服装への関心のみがその言葉の生きている世界であり、政治や戦争や政治活動を表わす女コトバはないということがその貧弱な言葉の世界でしか女は生きること許さ

れずますます視野を狭くされ女らしくとどまらされてきたのだ。そこですでに書いてきたように女らしさはキモノが作ったのではなく、女らしさもキモノも封建社会の制度から生れ

### 全国の女たちからのたより

(無断転載をお許し下さい)  
前略、日本にビル解禁を要求する会がある事を知りお手紙を書いていきます。  
私は28才の主婦です。三才の男の子が一人います。私は妊娠しやすいせいか今までに三回も中絶しています。その時は非悪感にさいなまれ夫がとても憎く思われます。セックスさえもいやになります。もしビルが解禁になればとても良いと思います。会にいらして頂きたいと思うのですが人会金とか、その他の事はどうなっているのでしょうか。お知らせ下さい。  
大阪 Oさん

た双子である。そして女らしさを維持し、発散させるのに役だったという関係性としてあるのだ。  
29号では明治以降まだ根強く残ったキモノについてお送りします。どうぞお楽しみに。

大きな、夫と二人になって気がぬけた状態です。  
娘にビルのこと、中絶のこと、子殺しの女を支援する会などの話を聞き、びっくりするだけで話し合うなどできませんでした。この三〇年間でふり返ってみて、生活のために仕事を続け、いい母親になることを女の生きがいとし、仕事と育児家事を一心にやっけてきて、体もガタガタになってしまった今、娘の言うのも正しいなと思うようになってきてます。  
一つの例ですが、男の人も家事を手伝うべきであり「だんな様にはそんな男の人を選ばないよ」と娘に話しています。  
まだまだ理解しかねることの方が多くですが、娘と話し合えるよう、これからは拝見していきたく思っております。著いでしようが、がんばって下さいませ。  
東京 Hさん

- 中び連パンフ類取扱書店
- 東京 榎案舎(新宿) 三五二一三五七七
  - コマバ書店(駒場) 四六七一九八七三
  - スリーポイント(銀座) 〇
  - 吉祥寺ウニタ
  - 大盛堂(渋谷) 三五三一二六〇三
  - 文鳥堂(四ツ谷) 二六五一九八〇一
  - 満江紅 二六五一九八〇一
  - 国分寺アバン書房
  - 大阪
  - グイレッジ・ファイブ 三一四・〇五〇〇
  - 大阪ウニタ書舗 六三二一〇四七〇
  - 神戸
  - イカロス書舗 〇七八一三九一〇四七〇
  - 名古屋
  - 名古屋ツニタ 〇五二一七三一一三八〇
  - 仙台
  - 八重洲書舗 〇三三三一二二一九八〇九
  - 京都
  - ふたは書房河原町店 〇七五一一二一一〇六二九
- 出版案内
- 「ビルの全貌」 一〇〇〇円
  - 「セミナー講義録 1 医療体制」 一〇〇〇円
  - 「セミナー講義録 2 女性の生理と解剖」 一〇〇〇円
  - 「子殺しの女を釈放せよ」 一〇〇〇円
- 一ネオリブ国際版(英文) 近日発刊予定 月一回